

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉総合産業高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	令和5年4月21日
------	----------------	-----	-----------

1 学校目標	
部活動の振興をとおして、本校の教育目標の柱である「誠実な心とたくましく生きる力」「自主・自律の態度」「思いやりと友情」を涵養し、生徒の個性の伸張や人間性の育成と学校の活性化を促進する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>①部活動（体育系・文化系・技術系）への加入率と満足度を高める。</p> <p>②顧問が体力・メンタルトレーニング・栄養等についての知識や技能を身に付け、それぞれの部活動での指導に活かす。</p> <p>③競技力向上対策事業（県体協）強化指定部の部員数の拡充及び部員相互の指導・連携を図る。</p> <p>【強化指定部】 陸上競技(男女)・カヌー(男女)・自転車競技(男女)・ソフトボール(女)</p> <p><数値目標> 生徒の部活動加入率 95%以上 (R3...93% R2...96% R1...95%)</p> <p>学校生活に関するアンケート〈A～Eの5段階評価〉 生徒 「自分は、部活動に積極的に取り組んでいる」 AB評価 85%以上 (R3...79% R2...86% R1...72%) 保護者「本校は、運動部や文化部等の部活動指導について満足できる指導を行っている。」 AB評価 95%以上 (R3...79% R2...82% R1...86%)</p> <p>部員数 ※ () 内は R3 部員数 陸上競技 25 人(17) カヌー 25 人(22) 自転車競技 25 人(23) ソフトボール 25 人(12) ※ レスリング 25 人(14) R4 年度は強化指定部外</p>	<p>・加入率 1年間をとおして高い部活動加入率を維持している。ただし、学年によってばらつきがあり、その点に関しては是正していきたい。部活動に未加入の生徒に対して、生徒会執行部に勧誘し、学校生活を充実させる取組も実施した。</p> <p>・満足度 学校評価アンケートの結果を見ても、昨年度とほぼ同様の結果になった。コロナ禍の影響がR4年度も部活動に関する取組の意欲等に少なからず影響したと思われる。しかし、3年生（生徒及び保護者ともに）は高い値になっており、高校在学中を通じてコロナ禍であり、その中で個々が工夫をし、部活動に取り組んだことが窺える。</p> <p>・強化指定部活動部員数及び大会出場 部員数は各部によって増減があった。差が大きかった部としては陸上競技が7人増え、レスリングが4人減った。 大会参加者については中国大会や全国大会に強化指定部を中心に多くの参加者を出すことができた。中国大会参加者数についてはR4年度には野球等の団体競技の参加がなかったため、大幅に数を減らした（R3年度は132人）が、全国大会参加者はR3年度（32人）と比して、約1.3倍の生徒が参加している。中学生対象の部活動体験もR4年度は参加者があり、好材料が見られた1年であった。</p> <p><数値結果> ・部活動加入率 93% (1年生 95%、2年生 89%、3年生 96%) 部活動加入率が目標値に比べ2%下回った。2年生</p>

<p>中国大会への参加人数 延べ200人 (R3...10部132人 R1...14部207人 H30...14部178人) 全国大会への参加人数 延べ80人 (R3...5部32人 R1...8部100人 H30...9部100人) ※R2年度は相次いで中国大会及び全国大会が中止になったことにより、未記載</p>	<p>の加入が低かった。2年生で部活動に入部していない生徒には部活動加入を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関するアンケート 生徒「自分は、部活動に積極的に取り組んでいる」 81% (1年生86%、2年生71%、3年生87%) <p>保護者「本校は、運動部や文化部等の部活動指導について満足できる指導を行っている。」 78% (1年生74%、2年生73%、3年生87%)</p> <p>部活動加入率、アンケート結果についてコロナ感染症の影響で思うように練習、特に対外試合ができなかったことが原因の一つであることは否めない。ただし、部としての活動に対して自主性を高めるなど、工夫している部があり、生徒が部の運営に積極的に携わり、生徒も保護者の部活動に対する満足感につながるような働きかけをしていく必要性を認知している。</p> <p>また、学校の部に所属せず、地域のクラブに所属し活動している者の存在も加入率の低さに関係していると推測する。。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強化指定部活動部員数 陸上競技24人 カヌー18人 自転車競技23人 (レスリング10人) <p>コロナ感染症対策により、部活動の活動に制限がかかったことが原因の一つと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国大会への参加人数 延べ63人 ・全国大会への参加人数 延べ41人 <p>※近畿高校総合文化祭出場は含めず。</p>
--	--

<p>3 実施事業</p>	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>○文化芸術活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化部校外・合同練習会支援事業 校外の施設を使用して練習する場合や県外大会等に複数校で参加する部門に対して練習の機会を確保した。 <p>【学校独自事業】</p> <p>○スクールプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的で豊かな人間性の育成 本校卒業生でスポーツ分野において活躍している人を講師に招き、全校生徒に対して、高校時代に感じ 	

ていた将来や社会に対する考え方、現在の自己の在り方や生き方についての講演会を行う。

→新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

【その他の事業】

・中学生の部活動体験

中学校にはない自転車競技部、カヌー部及びレスリング部の部員数を増やすため、夏季休業中に中学生を対象とした部活動体験会を行った。また、指導は本校顧問・部員が行った。

→R4年度は美術部に協力を仰ぎ、中学生対象の部活動体験のチラシを作成し、中学校に配付した。

4 総合所見（成果・評価）

コロナ感染症の影響が少しずつ薄まってきている状況もあり、殆どの大会が今年度は開催された。ただ、この3年ほどのコロナ感染症の影響は根強く、練習環境とともに多少なりとも生徒の意識の中にマイナスの影響を与えていると推察する。本校は部活動を基本的な生活習慣の確立や協調性の育成、人間関係の形成などに大きく寄与するものと位置づけ、部活動を学校活動の基軸の一つとして捉えており、必要性について認知している。その点で、R4年度は夏休みの中学生対象の部活動体験に2年ぶりに参加者があったり、活動制限がある中、中国大会や全国大会へも多くの参加者があったことは喜ばしいことであり、今後につながると期待する。

※枚数任意